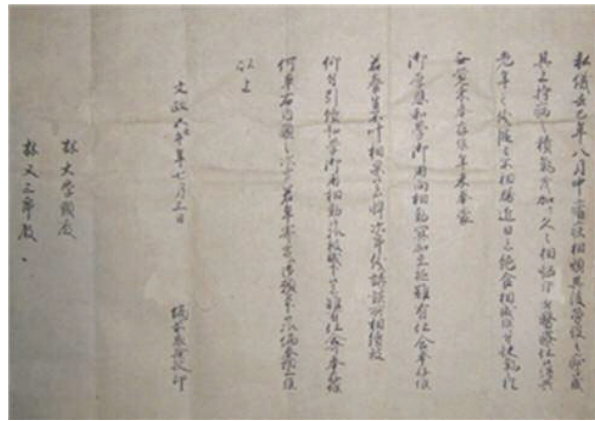


本庄市塙保己一記念館にある資料紹介

和学講談所の相続願書



今回は、塙保己一没後、子息次郎へ和学講談所の相続を願った文書の控えが残されていますので紹介します。

保己一は文政四年（一八二二）九月十二日に江戸で亡くなりましたが、跡目相続の準備はできていませんでした。このままでは保己一の家は断絶してしまいうため、保己一の弟子達は子息次郎への和学講談所の相続の手続きを行いました。そのためにはまだ保己一が生きていることとし、翌年の七月九日に亡くなったこととして幕府へ公式に届けました。そして届けを出す前のその月の三日に保己一は病気が重く回復が見込めないで息子の次郎に和学講談所御用を認めてもらえるよう、直属の上司である林大学頭に幕府若年寄へ取り次いでもらえるように願い出ました。結果、願いの通り塙次郎に和学講談所御用が相続されました。

（書き下し文）
私儀、去巳年八月中瘧疾相煩、其後勞役之症与成、其上持病之積氣茂加り久々相悩候二付、医療仕候得共、老年之儀段々不相勝、近日者絶食相成候二付快氣之程無覚束奉存候、年来奉蒙御厚恩、和学御用向相勤冥加至極難有仕合奉存候、若養生不叶相果候者、倅次郎儀、講談所相続被仰付、引続和学御用相勤候様被成下候者、難有仕合可奉存候、何卒右内願之次第若年寄方江御願被下候様偏奉願上候、以上

文政五壬午年七月三日
塙物檢校印

林大学頭様
林又三郎様

願書の内容
私は昨年の八月中より瘧疾（おこり）と持病の癩（さしこみ）が悪化したため治療はしたものの老年のこともあり快癒しそうなこともありません。もし私が死んだ後は倅の次郎に和学講談所の御用を相続できるように若年寄に願ひ出てほしい。という内容です。

総検校塙保己一先生遺徳顕彰会の会員を募集しています。

総検校塙保己一先生遺徳顕彰会では塙保己一先生の遺徳顕彰し、幅広い啓発活動を行っています。会員のみなさまの日頃のご協力に感謝申し上げます。

塙先生顕彰推進のため今年度も会費の納入につきまして、よろしく願いいたします。

みなさまのご協力をなにとぞよろしくお願いいたします。

年会費 個人会員 一口 千円、 賛助会員（団体） 一口 一万円

入会と会費納入の受付場所 本庄市役所 4階生涯学習課と本庄市児玉文化会館（セルディ） 児玉公民館（アスピアこだま内）で受け付けています。

※ 郵便振替でもお申込みいただけます（ご希望の際には、下記へご連絡ください）。



発行 総検校塙保己一先生遺徳顕彰会

事務局 本庄市教育委員会 生涯学習課 本庄市児玉文化会館（セルディ）内

所在地 367-0216 埼玉県本庄市児玉町金屋728-2

電話 0495-72-8851 FAX 0495-72-8854

※点訳ボランティアグループ「ほきの六点会」の皆様により会報誌の点字翻訳版を作成していただきました。ご希望の方は、事務局までご連絡ください

総検校塙保己一先生遺徳顕彰会 会報誌

第26号

平成28年9月号



本庄市身体障害者福祉会を代表して副会長の澤田昌憲さんに塙保己一少年像や台座にあるレリーフ、点字案内板などに触れていただきました

ごあいさつ

初秋、新秋、孟秋…暦の上では“秋”ながら、厳しい暑さが続く九月です。会員のみなさまには、日々の暑さにも負けずご健勝のことと拝察いたします。当顕彰会に対する日頃のみなさまのご協力に厚く感謝申し上げます。

顕彰会の念願であった塙保己一少年像が上越新幹線本庄早稲田駅北口にある「塙保己一旅立ちの朝公園」に建立となりました。銅像の台座にはレリーフや点字案内版等もあり、手で触れることもできます。また公園内の花壇には塙先生ゆかりの、ゆず・ほおずき・すみれなどが植えられており、私たちの目を楽しませてくれることを期待しています。

これからは塙先生没後200周年に向け、更なる顕彰事業を推進するための議論を重ねてまいりたいと思いますのでご理解・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

総検校塙保己一先生遺徳顕彰会
会長 吉田 信 解

塙先生の遺徳を偲ぶ 遺徳顕彰祭にぜひご参加ください

総検校塙保己一先生遺徳顕彰会では毎年、塙保己一の命日である9月12日に遺徳顕彰祭を行っています。

この催しは、祭壇に飾られた塙保己一の遺影に対し、その遺徳を偲び、来場者全員で菊の花を捧げるものです。

本年も下記のとおり開催いたします。皆さまのご来場をお待ちしております。会員以外の方もご参加いただけます。ぜひご参加ください。(参加費は、ありません。)

日時 9月12日(月)
午後2時 開式
(午後1時30分から受付)

内容 主催者・来賓による献花
来場者全員による献花
講演「偉人たちの生き方に共通するもの」
～塙保己一とヘレン・ケラーから学ぶ～
講師 平 光雄氏(社会教育家)



平 光雄 先生

第10回塙保己一賞

日時: 12月17日(土) 午後1時～
場所: 児玉文化会館 セルディホール

郷土が生んだ偉人「塙保己一」のように、障害がありながらも不屈の努力を続け社会的に顕著な活躍をしている方や障害者を献身的に支援している方を表彰する「第10回塙保己一賞表彰式」を開催します。(埼玉県主催・本庄市共催)



○平成28年度顕彰会総会を開催しました

5月21日(土)に平成28年度総会を開催しました。議題である27年度事業・決算報告や28年度事業案・予算案の審議・承認が行われました。

また、記念講演は、伊藤鉄也教授に『世界中だれでも読める「群書類従」』と題してご講演をいただきました。



○世界遺産登録2周年記念フェスタに参加しました

6月19日(日)に「田島弥平旧宅世界遺産登録2周年記念フェスタ」が伊勢崎市境島村旧境島小学校校庭ほかで開催され、事業部会役員が参加し、総検校塙保己一先生遺徳顕彰会のパンフレット等を配布して啓発活動を行いました。

塙保己一先生はどんな人物か―(3)

文・顕彰会事業委員 野口 茂

前号に引き続き、今回も塙保己一先生の生涯及び業績について順序立てて述べたいと思います。

その二、群書類従を編纂・刊行

この時代、国学という日本古来の文化、歴史を明らかにしようとする国家意識が高まっていました。

保己一は国学を志し時宜を得たもので日本中の古代からの文化や文献、図書を集めて正しい史実を編纂したのが群書類従でした。

イ、日本中の本を集めるのが大変でした。どこに何の本がなく「家宝」として隠してしまつて置く時代。

ロ、眼が見えないから人に読んでもらう。

ハ、文字の読める人が少ない。

― お金がかかる。

ニ、厳密に校正をして版木にして残す。

ホ、それ故、大量に印刷出来て正しく史実が後の時代に伝えられ大勢の人々の研究に役立ちました。

ヘ、資金は現在に換算すると何百億か、否何千億円か

ト、お金よりも、保己一が三十四歳の時から七十四歳の生涯迄、実に四十年間の歳月を費やしての時間と労力、資金を投入しての一大事業は誰にも出来ない前代未聞のことでした。

これには多くの人脈による協力者と「世の為」、「後の為」という強固な意志と信念を貫き通した生涯は、「般若心経」の固い思想と信仰心に結ばれていたとも言えましょう。

この群書類従に収められた文献は千二百七十三種類、二十五の部門に分かれ、六百六十六冊に仕立てられました。

版木の数は、一万七千二百四十枚、桜材で両面に彫られて現在、東京渋谷の温故学会の二階建倉庫に貴重に保管されています。

「群書類従」により次の二点が立証されました。

一、埼玉県の三偉人の一人である熊谷市妻沼の、荻野吟子、を日本で最初の日本女性医師として公認されたのは「群書類従」の中の「令義解りようのぎげ」という古代律令の解説書によって古くから女性医師がいたという記述により国の役人が認めたことによるものでありました。

二、小笠原諸島の帰属問題について、一七三五年に、アメリカ、イギリス、ロシア等との間に持

ちあがり、幕府の求めに応じて日本の領土であることを証明する歴史的資料「群書類従」によって提供したことにより、小笠原諸島が日本の領土であることが国際的に認められました。

次回は、国学・温故学会とは、
について掲載します。



群書類従の版木 (温故学会所蔵)